

越後 三国川銅倉沢沖クボ沢

棚橋

【日時】 2007年9月22日(土)～24日(月)

【メンバー】棚橋(L)、佐貫、小川

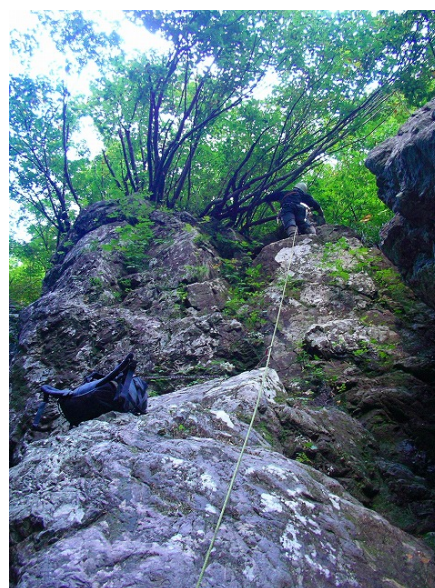
銅倉沢は8年前より憧れ、4年前からは具体的に遡行を考えてきた。そして3年前からは、貴重な秋の3連休はその計画に充ててきた。にも拘らず大雨大增水による中退に始まり天候不順等、どうしても憧れを現実のものにすることができなかつた。しかし「今年こそ、沖クボ沢から下津川山へ」の気持ちは強かつた。

9月22日 晴れ

十字峡にて準備を整えていると、二人組の遡行者が先行する。3連休で三国川流域となると、もしかしたら銅倉沢か。幕場の心配などしつつ、我々も出発。2週間前も歩いた林道を進むが、三国川で複数の釣り屋を見るのは初めてだ。そういえば駐車スペースも満杯であった。中尾ツルネ登山口先の取水堰より入渓し、間もなく真新しい足跡を確認。先ほどの心配が現実のものとなったかに思われたが、暫く進むと足跡の主が竿を振っていた。挨拶をし、なるべく巻いて進みますからと伝えたところ、快く先行させてくれた。

桑ノ木川を過ぎると釜を持った小滝が現れ、左岸から巻く。続く2段5m滝も登れないので左岸を佐貫が空身で登り、補助ロープを垂らす。小川君がザックを背負ったまま続いて登り、佐貫のザックを荷揚げした。私も続いたが、登っている最中に頭に衝撃を受ける。落石かと思っただ、沢床に落ちたザックの音を聞いて漸く状況を理解した。大急ぎでザックを回収に向かう。既に浅瀬も通過済みだったので少々焦ったが、その先の落ち込みに引っ掛かっていたのを無事回収できた。

下銅倉沢を右に見送るとゴルジュとなり深い釜も現れるが、幸い今日は天気が良いので水線通しに通過する。6mヒョングリ滝を越えると溪相が穏やかになり、開けてくる。先に進むと3段10m滝を落とす枝沢、下シンデン沢と右岸から滝の架かる支流が合わさる。更に中銅倉沢、上銅倉沢が短い間隔で左岸より流入。この辺りは幕場が得られそうであるが、時間もまだ14時前なので前回の幕場まで



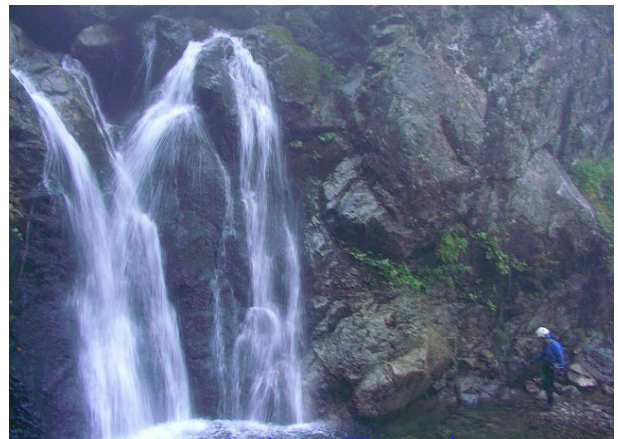
10m ハング滝は右側壁を登る

は目指すことにする。6m滝は小川君がロープを出して登り、続く4m斜瀑は左から巻く。巨岩帯が重なる先で上シンデン沢が1:1で合わさる。この辺りより明らかに溪相が変わり、いよいよ核心部の始まりである。

4段6m滝、3段10m滝を丁寧に登り、続く3段12m滝は小川君がフリーで登って補助ロープを垂らしてくれる。その先の10m滝はハングしており登れないので前回同様、右側から巻き気味に取り付くことにする。前回もここから登ったが、見た目以上に嫌らしいところだ。ここも小川君がロープを出して取り付く。手早くハーケンを決めた後、ザックを降ろして仕切り直し、安定した登りで上部へ抜けた。小川君様様である。ここを巻き下りると前回も泊まった幕場が、3年前と変わらない様子で待っていた。幕営適地ではあるが、「ただし増水しなければ」と条件が付く。辺りをよく偵察したが短時間で造成できそうな所は無く、2度も同じ目に遭うことだけは絶対に避けたいが、またもやここに幕営を決めた。大雨が降って増水することは無いと思われるが、荷物はまとめておくこととする。

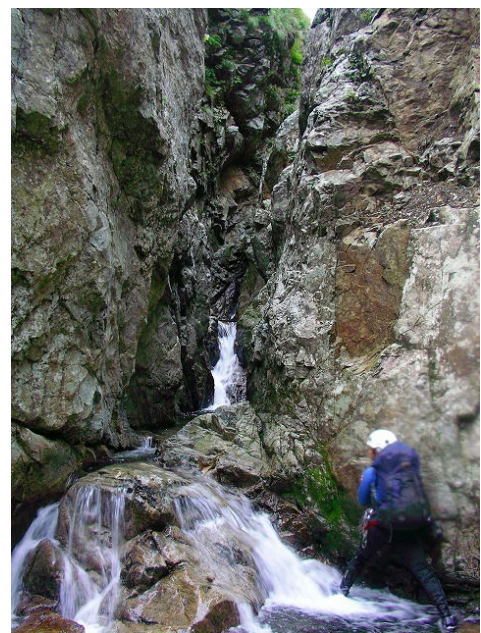
9月23日 曇り

流されることなく、目を覚ますことができた。いよいよここからは未知の領域である。すぐ先の6m滝は、増水して大水量が噴出していた光景が脳裏に焼きついており、この滝を通過する方法が3年間ずっと、頭から離れなかった。遠目に見ると右側が登れそうで、近づいてみるとそれは確信となった。ロープを出し、念のために空身で登ったが快適に登ることができた。これで一つの大きな呪縛から解き放たれた。



3年前から課題の滝

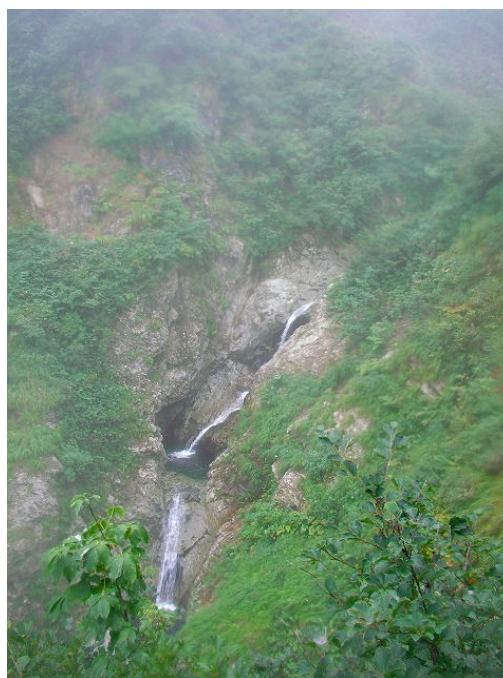
4m滝を右カンテから、更に3m滝を越えると登れそうもない連瀑が現れる。ここは手前右岸側のルンゼより巻き始め、懸垂下降10mにて沢に戻る。正面にガレルンゼが合わさる所を左に曲がると、狭いゴルジュの連瀑帯となっている。ゴルジュに入り1段登ってみると右壁にボルトが打たれ、シュリングが掛かっている。これに足を掛けて登り、左岸側を高巻くことにする。連瀑の先が沖クボ沢出合となっており、本谷は穏やかな溪相のように見える。片や、沖クボ沢は10m滝が3つほど懸かっており、この先も楽しませてくれそうだ。途中でブナハリを収穫し、連瀑最後の滝先のルンゼより沢に戻る。



沖クボ沢出合手前のゴルジュ

先の4m斜瀑は左から越え、続く8m滝は小川君がロープを出して右岸より取り付き、リッジより高度を上げる。ビレイ地点からは次の滝が見え、容易に登れる確信は持てな

かった。しかし近づいてみなければわからないので、残置のある灌木より懸垂下降10mにて沢に下りる。遠目に見えた6mナメ滝は、近くで観察すると水流右が容易に登れそうなので、そこから越える。続く2段8m滝は、上段5m部分を左壁へつりで通過する。ゴーロの先で左5m滝と右3m滝が両門の滝となって合わさっており、右側を越えると4m滝が現れる。ヌメっていて結構嫌らしいが、小川君が左壁をバランスよく登り、お助けを垂らしてくれる。

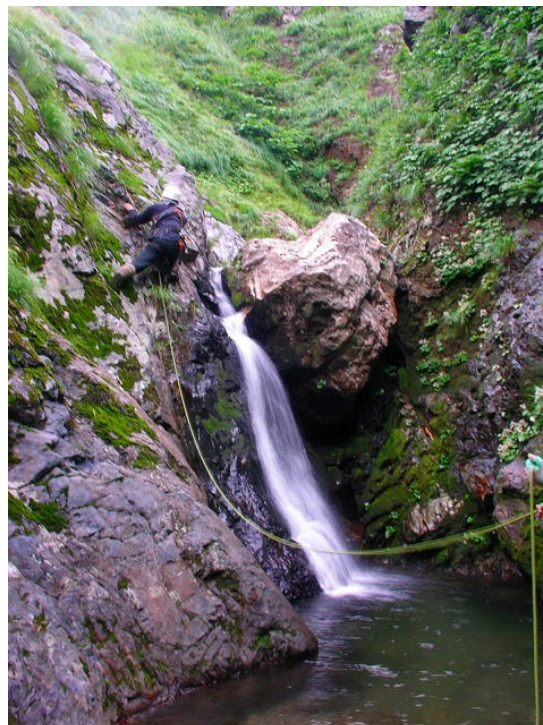


沖クボ沢出合からの3連瀑

その先はゴルジュの中の連瀑帯となっており、そこを水に浸かりながら通過すると先にもゴルジュが現れる。初っ端にある、淵の先の6m滝に登れないので左岸よりまとめて巻く。沢に下りた辺りからは、草付帯も低い所まで下がっている。CS8m滝、2段6m滝を越えると右岸に幕営に適した台地が現れ、そこがc1400の二俣であった。14時と、まだ行動できる時間ではあるが、これほどの適地はこの先、期待できそうもないので幕営を決める。薪が乏しいので偵察がてら集めに行ったが、進む左俣には厄介そうなCS滝があったので十分偵察し、明日の課題に取っておく。なお出合に5m滝を有している右俣は、滝の先は源頭の様相を呈していた。

9月24日 曇り

昨夜からの風が相変わらず強いので、ツェルトの中で食事をする。幸い雨は降っていない。準備を済ませ、二俣を左に進む。すぐにCS3m滝が現れる。ここは昨日の偵察の通り、小川君が昨日見つけた左壁の小さな突起を拾い、途中ハーケンを1本打って登る。



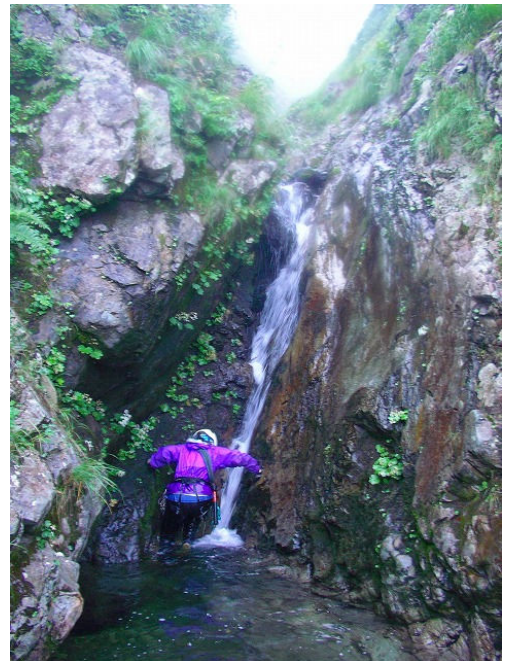
幕場先のCS滝

その先も屈曲状に懸かる3段10mを始め、滝が次々と現れる。2段8m滝の先の8m滝ではロープを出し、続くチムニー状の3m滝は手前の深そうな淵とシャワーを避けたいと左右の巻きルートを物色する。ここで佐貫がさっさと雨具を着てレンゼ滝を登る。確かに巻きの方が数段悪く、水線通しに続く。CS4m滝そして8m滝を右から登ると左岸側から支流が1:1で合わさる。

3m前後の滝が続き、4m滝2連瀑は上部が厳しい。更に2段8m滝を越えると狭いゴルジュとなるが浅い。その先の2段8m滝を越え、続く8m滝をフリーで登る

と滝が小さくなり、小滝が続く。3m滝を小川君が左から、続く3m滝を私が越えると漸く滝場が終わったようだ。詰めはなるべく沢形を拾い、最後は笹藪漕ぎ10分で3年間目指し続けた下津川山の山頂に着く。

少々休憩した後、感動に浸る間もなく下山を開始する。まずは小穂口ノ頭を目指す。暫くは進むべき方向に踏み跡らしきものがあり、また切り付けも見つけたので進むが、視界が悪く、2度に渡り支尾根に導かれてしまう。その度に藪尾根を登り返して確認するので、大幅に時間をロスしてしまうが止むを得ない。2度目の登り返し時に、偵察に降りた小川君が正しい尾根を発見。古い赤布も見つかり一安心。小穂口ノ頭までの藪は、濃い部分が少ないので助かる。小穂口ノ頭に着いたのが16時半。途中で暗くなることは確実なのでヘッドランプをすぐ出せるようにして、中尾ツルネを下降開始。相変わらず歩き易い道なので、なるべく明るいうちに高度をさげるべく懸命に歩く。下山途中に小川君と私は、登山道に巣を作っている蜂に1か所ずつ刺され、結構痛かった。一時は今日中に下山できないことも覚悟したが、19時過ぎには無事、十字峡に下山した。

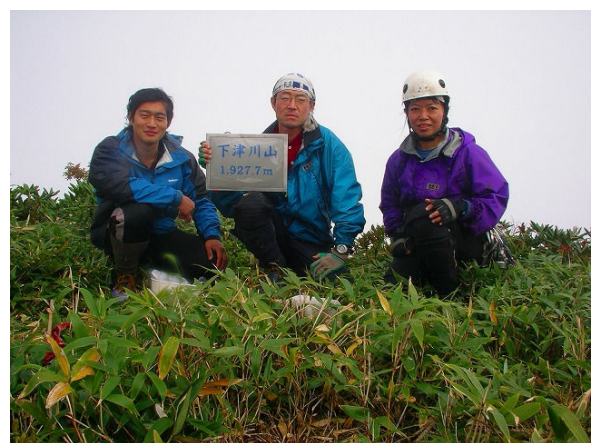


チムニー滝 3m はシャワー

銅倉沢は、この3年間で何回計画したことか。そして何人の会員に同行を願ったことか。これで漸く銅倉沢を遡行するという「三国川プロジェクト」は区切りが付き、晴れやかな気分だ。このプロジェクトで得られた経験を活かし、これからは他の流域にも積極的に取り組んでいきたい。もちろん、この魅力的な三国川に残された課題と並行して。

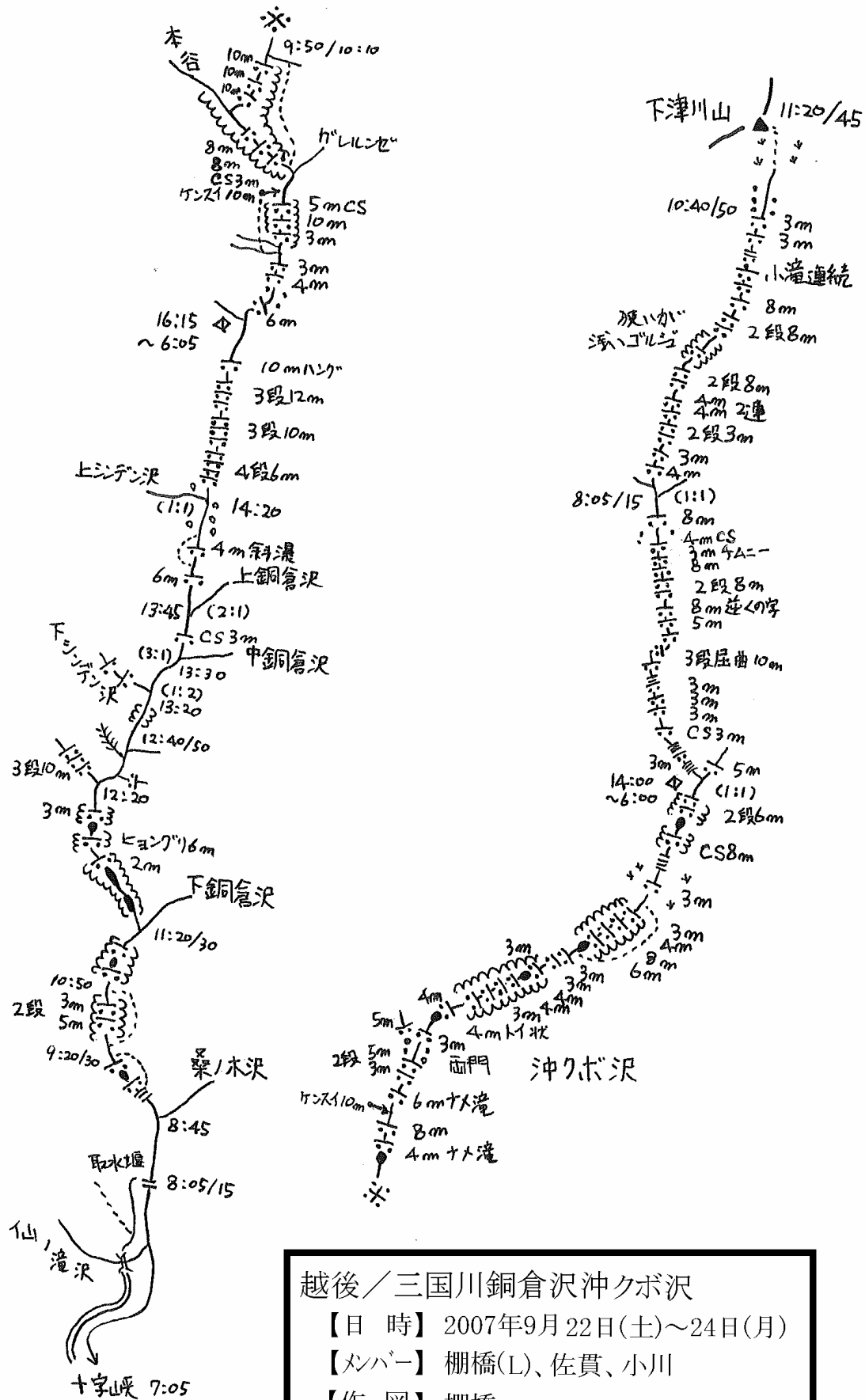
【グレード】4級

【行程】9/22 十字峡(7:05)～取水堰(8:05/15) ～下
銅倉沢出合(11:20/30)～
上シンデン沢出合(14:20)～c1100付
近(16:15)
9/23 幕場(6:05)～沖クボ沢出合上部
(9:50/10:10)～c1400二俣(14:00)
9/24 幕場(6:00)～下津川山(11:20/45)～
小穂口ノ頭(16:30/40)～林道
(18:20)～十字峡(19:15)



下津川山山頂にて

【地図】兎岳、奥利根湖



越後／三国川銅倉沢沖クボ沢

【日時】 2007年9月22日(土)～24日(月)

【メンバー】 棚橋(L)、佐貫、小川

【作図】 棚橋